

平成28年10月4日（火） 朝会講話「秋の日はつるべ落とし」

おとといの運動会は、お天気にも恵まれ、皆さんの元気いっぱい、力いっぱい、笑顔いっぱいのすばらしい運動会でした。まさに、テーマであった「40周年、歴史を刻む、勝利をめざせ」にふさわしい運動会だったと思います。身体の疲れはもう抜けたでしょうか。今日からまた普段の学校生活に戻り、落ち着いて学習していきましょう。

さて、皆さんは、こんな言葉を知っていますか。「秋の日はつるべ落とし」聞いたことがありますか？ 高学年の人は意味を知っている人も多いでしょう。

「つるべ」というのは、昔の井戸で水をくみ上げるときに使った桶のことで、「秋の日はつるべ落とし」とは、秋の夕日は、つるべが井戸にストンと落ちていくように、あっという間に日が沈むことを言います。

たしかに、このところ日が暮れるのがだいぶ早くなりましたね。

夏の間、6月の半ばから7月の半ばまでの東京の日の入り時刻は、午後7時ぐらいで、1ヶ月の間あまり変わりません。そのあとは、毎日だいたい1分ずつ日の入りの時刻が早くなり、8月の終わりには、6時10分ぐらい。そして、季節が秋に代わる9月から10月には、1日1～2分ずつ日の入りの時刻が早くなり、10月の終わりには、4時50分頃には日が沈んでしまいます。夏の頃に比べると、2時間以上早く日が沈むことになり、まさに「秋の日はつるべ落とし」と言う感じですね。

ちなみに、今日、10月4日の日の入りの時刻は、5時21分です。

10月から「愛のチャイム」も曲が「七つの子」に変わり、これまでより1時間早く、夕方の4時30分になるようになりました。外で遊べる時間が短くなるのは残念ですが、暗くなるのがどんどん早くなりますので、早めに家に帰るようにしましょう。そして、その早く帰った分の1時間を読書や勉強に使うようにしてみましょう。

